



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

---

CITATION:

質疑應答. 地球 1927, 8(1): 81-82

ISSUE DATE:

1927-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183288>

RIGHT:

勵をはじめた、蓋しこの兩州は土壤桑樹の發育に適し、野生の桑で高きは數米突に及ぶものがあり、加之常春の氣候で一年六回或は其以上の收穫を容易ならしむる、従つて當地方の珈琲耕地勞働者の婦女子の副業として、利益多きのみでなく年々轉々として耕地を變更する勞働者の足止ともなつて、近來耕主の注意に上つてきた、故にカンピーナス郡では五千本以上の桑樹を栽培するものに「コントス」五百「ミルレース」の獎勵金さへ附與するやうになり、各郡これに類似の方法を講じだしてきた、日本の移民が先方へ行つて、一つ旗上げをするにも都合よいことだと思はれる。目下翠州内には三十ヶ所の生糸工場が出来てゐるといふことである。

○團員工學博士理學士比企忠氏の逝去を悼む

昭和二年六月廿三日 地球學 團

質疑應答

〔問〕「クラトーゲン」

〔答〕 ヨーベルが一九二一年の *Der Bau der Erde* の著書中に「オロゲン」との地質學的對語として新に述べた術語であつて「簡單に言へば既に凝固せる地殻であつて、オロゲンは之れに對し未だ凝固せず従つて此處に作用する壓力に依り褶曲し山脈を構成する脆弱なる堆積層である。第三紀のアルプ

ス褶曲運動を起した運動に就いては、スペイン及びフランスの地中海沿岸、アフリカのアトラス山脈、アルプス、カルパチア、ゲナルアルプス、小アジア、ヘルシャ、ヒマラヤ、ピルマ、スマトラ、ジャバ及ボルネオ等の山脈地帯をオロゲンとし其の南北兩側の陸地をクラトーゲンと稱して居る。

〔問〕イベリア半島の氣候

(愛知生)

〔答〕 イベリア半島の氣候現象の依つて來れる理由を説明して下さいといふ質問に接しました、六ヶ敷理由もありませんこの半島が高原であるといふ地形學的因子と、其周圍に海があつて暖帶に位してあるといふ氣象學的理由のコンビネーションが、この半島の氣候を決定したので、即ちこの海洋の影響は、この半島の北及北西部から西の端にしか及ばない程に内部は高原性で *Meseta* といふ地域になつてゐる、メスタは低い盆地を限つて高い「リツサ」が並行に走つて、多くの盆地をつくる地形である、低い盆地の周圍には、高い山嶺があるから外からの氣候の影響が及ばないさうした山脈は *Sierra Guadarrama* *Sierra Morena* など、云はれてゐる。かうした地形で氣候は極端に大陸性であるから *Meseta* は一般に沙漠性なのです。しかし半島の北にカンタブリアン、ピレニ山脈が東西に亘つてゐるので、ビスケー灣沿岸は海洋性であり、西歐洲の氣候と同様に降雨量も多いのですが、半島的大部分は所謂地中海式氣候圏内にあるから、東北貿易風の爲めに夏は降雨がないし、冬は暖帶圏が南に下つて、この邊は西

風帯に入るから、西風のために雨が降ってくるがそれば主として葡萄牙の山地に吸収されて *Meseta* の高原には及ばない。茲に於てかスペインは全部がアリッドな人口密度も一方哩に百人以下といふ土地になつてしまつたのです。勿論高原中に山地もあり盆地もあつて、其部分部分にちがつた氣象狀態がありますから、一概には云へませぬが、大體論は以上の如くです。故に川でも水が少く且つ海から少しく入つた所で瀑布になり、ゴレーザになつて舟運がない。Minho 川と Douro 川とはカンタブリアンに發源するから水源に雨が多く水もあるが、Tago 川や Guadiana 川は元來カニオンに似た谷に夏期は水が枯れて、全く流がとまることがある従つて *Meseta* の盆地に於て灌漑をすることが出来ない、牧畜が辛じて出来る程度である、こうした理由からメスタの西の端と西班牙の國境とが一致して、一つの半島の中に二つの國が出来てゐる。葡國の方は水運の便と、灌漑の利と、森林の黒々したのがあるに比して、西國の方は舟が通らず、灌漑が不便で山も野も禿けてゐる、さうした地形の差と同時に歴史上の理由から、兩國は到底利害が一致しないのである。地形と氣候の差が、人文に及ぼす尤も著しい例證であると思ひます。(藤田)

〔問〕 スワイヤ海淵 (Swire deep) 正誤

高知縣多ノ鄉村橋田義壽氏の注意により五月號の本欄答辭を左の如く訂正す

〔答〕 アジア大陸の東方太平洋の西岸には陸地に接して深い

海溝が二つある、其一は日本變の東にあるタスカローラ海溝であり、其一はヒリッピン變の東にある。ヒリッピン海溝である。しかしてこのスワイヤ海淵といふのは後者に屬する最深部の名でミンダナオの東にある九七八八米の海淵で、最近まで世界の最深淵として有名であつたものである。

但し *The depths of the Ocean* 一四一頁にこのスワイヤ海淵といふはこの答の如く狭いミンダナオの東の窪底に限つて命名せずして、スワイヤ deep はヒリッピンに近く北太平洋に横はり、北緯四度より北緯二十五度に達し、五五〇、〇〇〇平方哩の面積がある。其中間に二七〇〇尋乃至二九〇〇尋の浅い海があつてこの deep を破つてはゐるが北と南とは四〇〇〇尋からの深い海がある。サマル島の沖には四七六七尋の深所があると記してあつて、琉球海溝とヒリッピン海溝とを包括して *Swire deep* と命名してある。これは英語の用ひ方であつて前の答とちがつてくる。山崎直方博士の我南洋に從へばヒリッピン海溝の中に、このスワイヤ海淵があることになり、*Murray* の記事に從へばスワイヤ海淵の中にヒリッピン海溝も琉球海溝も入ることになる。これ全く deep と云ふ字の使ひ方が日本と英國と違つてゐるといふ事を示めすものである。淵といふ字をあてるとすれば、山崎博士の使用例の方が正確であると思はれるから、答を前段のやうに記したのである。讀者之を諒とせよ。(藤田)